

碓氷峠鉄道文化むら 企画展
～碓氷新線開通60年～



【開催日】 2023年7月15日(土)～12月28日(木)
鉄道資料館 2階



【開園時間】

3月1日～10月31日 9:00-17:00 (最終入園16:30)

11月1日～2月末日 9:00-16:30 (最終入園16:00)

【休園日】 毎週火曜日 *8月は無休

【お問い合わせ】 TEL: 027-380-4163

～碓氷新線について～

碓氷峠は古来より交通の要所であり

今から130年前の明治26年4月1日に鉄道が開業しました。

横川駅-軽井沢駅（11.2km）の標高差は553mありましたので

アプト式鉄道と呼ばれる歯型のラックレールをレール中心に敷設し

機関車のピニオンギアを噛み合わせて峠の急勾配を上り下りしていました。

経済復興により昭和30年頃から信越本線の鉄道利用者が増加しましたが

碓氷峠は単線運行、運行速度などで輸送のボトルネックとなっていました。

そこで輸送力を増強するために碓氷新線の計画が立ちました。

碓氷新線を敷設するにあたって25%案や50%案などありましたが

今後碓氷線を複線にする計画もあったことから

アプト式鉄道にほぼ並行して山側（北側）に新線を敷設する66.7%案になりました。

また従来のアプト式鉄道ではなく碓氷峠専用の機関車を開発し

粘着運転方式で運行が計画されました。

1961年に碓氷新線の起工式が行われ、1962年にEF63形電気機関車が新製され

各種性能試験を行い1963年7月15日に碓氷新線が暫定開業しました。

1963年9月30日までアプト式鉄道と碓氷新線が併用で運行され

1963年10月1日に碓氷新線が本開業しました。

アプト廃止後、旧線を改良して1966年7月2日に碓氷線は複線となりました。

1997年10月1日 信越本線の役割を長野（北陸）新幹線に受け渡しました。

～企画展について～

2023年は信越本線の歴史のなかで節目を迎える出来事がたくさんあります。

碓氷線開業130年(1893年)、碓氷線電化111年(1912年)、

峠の釜めし発売65周年(1958年)、アプト式旧線廃止60年(1983年)、

碓氷新線開業60年(1983年)の節目を迎えます。

今回の企画展では当館所蔵の碓氷新線が開業する前後の写真を中心に

碓氷新線にまつわる資料など特別に展示します。

碓氷峠鉄道文化むらのほかにも

安中市観光機構 観光案内所、JR 信越本線 横川駅、荻野屋 資料館で

信越本線がアプト式鉄道の時代、粘着運転の時代、北陸新幹線へと

受け継がれることをテーマにした展示「峠を越える、三世代の鉄道」を実施します。



主催：碓氷峠鉄道文化むら、(一社)安中市観光機構、安中市地域おこし協力隊

協力：東日本旅客鉄道株式会社高崎支社、株式会社荻野屋、碓氷峠鉄道文化むら新商品PT